

1. 授業の基本情報・概要

本授業が対象にしている DP は、主に 1 の前半と、4 となる。

<知識・理解>

1. 教育と教職に関する確かな知識と、得意とする分野の専門的知識を修得している。

<技能>

2. 教育活動に取り組むための十分な技能を身につけている。

<思考・判断・表現>

3. 教育現場で生じているさまざまな現代的諸課題について、専門的な知見をもとに、その対応方策を理論に基づいて総合的に考え、その過程や結果を適切に表現することができる。

<関心・意欲・態度>

4. 教師としての使命感や責任感を持ち、自己の課題を明確にして理論と実践とを結びつけた主体的な学習ができ、自主的に社会に貢献しようとする。

この授業の目的は、教職への真の一体感・使命感・意欲を形成する前提として真摯な自己吟味をするため、教職の意義と教員の役割、教員の身分・資格、職務内容、学校の現状と求められる教師像を理解し、教師としての自己成長の方途について考えさせることにある。教職（教員養成）の導入科目であり、大学入学後にはじめて教師としての自己の適性を問う科目となる。そのため、教職教養の全体的な領域（教育時事、教育法規、教育原理、教育史、教育心理、教育政策など）の基礎的な知識・理解の修得を第一義的に目標にしている。これらの基礎的な知識・理解を深化・拡充できることが、専門的職業陣としての使命感や責任感と表裏一体であることを

授業では強調している。

【達成目標】

- (1) 教職の意義と教員の役割、教員の身分・資格、職務内容、学校の現状と改革動向、社会が求める教師像について確かな知識と理解をもち、分かりやすく説明できる。
- (2) 教員生活の現状を知り、それを自身の進路選択の参考とすることができる。
- (3) 教師としての成長という観点から、今後の学修をロードマップとして構成することができる。

【愛大学生コンピテンシー】

- ・個別の知識や技能を相互に関連づけながら習得できる
- ・広い視野と論理的思考に基づき分析・解釈できる
- ・様々な状況に応じて適切な対話・討論ができる
- ・目的達成のために多様な人と協働できる

2. 授業評価・授業研究の内容及び成果

Table.1 に示すように、DP1 と DP4 の結果に関しては、良好な成果が得られている。「あてはまる」については、いずれも 90% を超える効果であった。DP4 に関しては、前年にあわせて、各グループの話合い活動をベースにしたことによって、主体的な思考が促進された結果であると考えられる。

また全体的な評価が前年に比べて若干下がっていることは、今年度、授業課題を多く課したことが影響していると考えられる。

3. 「授業時間外学習の促進」について

Table1. 教職基礎論

		とても そう 思う	ある 程度 そう 思う	あ ま り そ う 思 わ な い	D P と 無 関 係	計
DP1 教育に関する確かな知識と得意とする分野の専門的知識を修得している DP1A: 教育に関する知識の修得	H26	88.4%	11.6%	0.0%	0.0%	100.0%(129)
	H27	97.8%	2.2%	0.0%	0.0%	100.0%(134)
DP1B: 得意分野の専門的知識の修得	H26	59.5%	33.3%	6.3%	0.8%	100.0%(126)
	H27	54.5%	34.3%	7.5%	3.7%	100.0%(134)
DP1 知識	H28	64.2%	31.8%	4.1%	0.0%	100.0%(148)
	H29	54.4%	38.8%	6.9%	0.0%	100.0%(160)
DP2 教育をめぐるさまざまな現代的課題について論じ、適切な対応を考えることができる。 DP2A: 教育をめぐる現代的諸課題の理解	H26	81.9%	18.1%	0.0%	0.0%	100.0%(127)
	H27	92.5%	6.7%	0.7%	0.0%	100.0%(134)
DP2B: それへの適切な対応策の在り方...	H26	68.8%	30.5%	0.8%	0.0%	100.0%(128)
	H27	74.6%	25.4%	0.0%	0.0%	100.0%(134)
DP2 技能	H28	43.9%	47.3%	8.8%	0.0%	100.0%(148)
	H29	45.0%	41.9%	12.5%	0.6%	100.0%(160)
DP3 教育活動に取り組むため、高い技能と豊かな表現力を身につけている。 DP3A: 教育活動に必要な高い技能の修得	H26	49.6%	42.5%	5.5%	2.4%	100.0%(127)
	H27	55.2%	41.8%	2.2%	0.7%	100.0%(134)
DP3B: 教育活動に必要な豊かな表現力の修得	H26	39.5%	45.7%	10.9%	3.9%	100.0%(129)
	H27	38.8%	48.5%	8.2%	4.5%	100.0%(134)
DP3 思考・表現	H28	47.3%	45.3%	7.4%	0.0%	100.0%(148)
	H29	43.1%	48.1%	8.8%	0.0%	100.0%(160)
DP4 自己の学習課題を明確にし、理論と実践を結びつけた主体的な学習ができる。 DP4A: 自己の学習課題の明確化	H26	38.3%	55.5%	5.5%	0.8%	100.0%(128)
	H27	65.7%	31.3%	3.0%	0.0%	100.0%(134)
DP4B: 理論と実践を結びつけた主体的な学習への意欲	H26	37.5%	45.3%	14.1%	3.1%	100.0%(128)
	H27	37.3%	51.5%	9.0%	2.2%	100.0%(134)
DP5 専門的職業人としての使命感や責任感と多世代にわたる対人関係力を身につけ、社会の一員として適切な行動ができる。 DP5A: 専門的職業人としての使命感や責任感の形成	H26	63.6%	31.8%	4.7%	0.0%	100.0%(129)
	H27	70.9%	26.9%	1.5%	0.7%	100.0%(134)
DP5B: 多世代にわたる対人関係力の育成	H26	30.2%	45.7%	14.7%	9.3%	100.0%(129)
	H27	39.6%	41.8%	11.9%	6.7%	100.0%(134)
DP4 主体的学習と社会貢献	H28	67.6%	29.7%	2.7%	0.0%	100.0%(148)
	H29	65.6%	31.3%	3.1%	0.0%	100.0%(160)

授業の時間外学習は、課題に関しての平均が 1.13 時間（平成 28 年度）、1.76 時間（平成 29 年度）あり、自発が 0.47 時間（平成 28 年度）、1.18 時間（平成 29 年度）と、計 2 時間から 3 時間と増大し、想定した程度の時間外学習の促進ができていると考えられる。

自発的読書が 1.3 本から 1.86 本へ増加したことも、今年度、欧米のレポート推薦図書方式を用いて、自主学習を進める手立てがある一定の効果を持っていると考えられる。

4. コアカリキュラム化を目指して

次年度は教職再課程認定に伴い、下記のとおり、シラバスの変更を行った。主体的学習を進める上で、第 3 回、第 6 回、第 14 回について、時間外学習をとまなうレポートであることを事前周知し、より学生の学習がしやすい環境を作ることを改善したい。

- (1) イントロダクションー教師の職業世界ー
- (2) 教職への信頼のゆらぎ(1)ー不祥事から考える服務上・身分上の義務ー

(3) 教職への信頼のゆらぎ(2)ー保護者・地域社会からの信頼の変化ー

(4) 教職の世界を理解するー教師の仕事と職務内容ー

(5) 教職を取り巻く社会の変化ーチーム学校の必要性ー

(6) 教師に求められる資質能力とは

(7) 公教育制度の成立と教職-教職の社会的必要性ー中間確認テスト

(8) 教師研究の方法(1)ーライフサイクル論ー
(9) 教師研究の方法(2)ーライフヒストリー論ー

(10) 現場の教員に学ぶ（実地指導講師講話）

(11) <教師の成長>と研修・身分保障

(12) <学び続ける教師>：生涯学習の必要性

(13) 自己の適性を考える(1)ー自己実現目標としての教師像ー

(14) 自己の適性を考える(2)ー自己教育課題の明確化ー学習課題レポート

(15) まとめー教職をめざした学習ロードマップを創ろうー